

社会主義は理想なのか
 ～「共産党宣言」に学ぶ

第7回 関東ブロック

労働者革命の第一歩へ

司会Ⅱ今回は第2章の後半を学習します。後半もブルジョアの私有財産制に基づく考え方からの共産主義者への非難への反批判が展開されます。少し難解な部分もありますが、討論で明らかにしていきます。

人格と自由の廃止

まず、本文60Pに「人格と自由の廃止」について述べられています。「ブルジョア社会においては、資本は独立で、人格であり、これに対して活動する個人は非独立で、非人格である」であり、共産主義者がこのよう

な関係を廃止しようとする、「ブルジョアはこの廃止を人格と自由の廃止と呼ぶ」とありますが、これはどういう意味でしょうか。

RⅡ資本主義社会における自由というのはブルジョアの自由です。その自由を封建的社会の不自由に対して言うのであれば、一定の意味を持ちます。封建社会では、移転、職業の選択、土地の売買の自由はなく、身分的人格的な隷従関係が支配していました。ブルジョア階級は、この古い関係を打ち破り「自由と平等」をかかげて、資本主義が成立しました。しかし、この自由

は、自由な商業、自由な売買という資本主義的自由を意味し、資本主義社会では大多数の労働者階級にとつては「非自由」です。

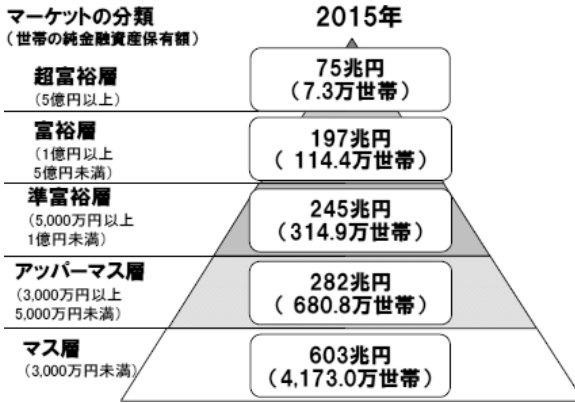
SⅡここは貨幣と商品の形態転換の運動である資本は独立で、人格であり、人格を持つ労働者が、労働力商品という物として扱われ、活動する人間個人は資本家も労働者も、非独立で非人格という逆さまな社会を疎外について言っているのです。

私有財産を廃止すること

司会Ⅱ分かりましたか。次に再び私有

◆みんなの学習講座

マーケットの分類
(世帯の純金融資産保有額)



保有資産規模と世帯数

財産の廃止と個人の廃止が出てきますね。本文 61 P 「諸君は、われわれが私有財産を廃止しようと欲することにおどろく・・・私有財産は社会成員の十分の九にとつては廃止されている。それは、十分の九の人にとつて存在しないというまさにそのことによつて、

存在しているのだ」と言っています。わかりづらいですね。

S II それは、資本主義社会ではごく一部の資本家に生産手段(財産)が集中し、大多数の労働者階級は財産を持たない。よつて、社会成員の大多数が財産を持たない状態は、私有財産が廃止されているのと同然だ、という意味でしょう。その次の文「大多数が財産を持たないことを必然的前提条件とするような財産」とは、賃労働と資本のことを言っていますね。ここでは財産という言葉を使っていますが、いうなれば賃労働と資本は廃止されるということです。

TA II 疑問があるけどもいいですか。「宣言」の最後に、「プロレタリアは鉄鎖以外に失うものを持たない」と言っているけど、失うものを持ちすぎではありませんか？ 今の労働者は、住宅、車、エアコンや家電製品、土地、証券等々。

S II 住宅や車は生産手段じゃないだろう。生活手段と生産手段は別個だ。ここは資本家が私有している生産手段のことを述べているんだ。そこを俺たちはちゃんと把握しなければいけない。今は「党宣言」が書かれたときよりも生産力はグーンと発展しているから、今言っているように生活に便利なものはいっぱい出てきている。車、エアコンや家電製品、家等々、でもそれは労働力再生産に必要なもの。ここで問題にする財産とは、「賃金労働は資本という財産をつくり出す。それは賃金労働を搾取し、そしてまた新しい賃金労働を生産しそれを再び搾取するという財産」のことです。つまりブルジョアの所有を廃棄するということです。

「社会の十分の九」はそういう財産を持つていないと言っています。ここがきちつと理解できるかどうかだと思います。

私有財産の廃止とともに

一般的怠惰がはびこる？

司会Ⅱ本文P 62 「私有財産の廃止と共に、すべての活動がやみ、一般的怠惰がはびこる」に対しては、そうであれば、「ブルジョア社会は、とうの昔に破滅していたにちがいない。この社会では、働く者は儲けない、儲けるものは働かない」と反論していますか・・・。

T AⅡ友人と議論してよく言われるのは、「共産主義になるとみんなの財産は没収だよ」という。また、共産主義社会になると、働かなくても、働いても同じだから正直者は損をする。そうになると労働者は怠けると喧伝される。これにうまく反論できないんだよね。

○Ⅱブルジョアの私有財産が廃止されて計画経済により生産力が格段に増大すると、例えば共産主義社会では「各人が能力に応じて労働し、必要に応じて分配する」ことになります。しかし、

プロレタリア革命後の過渡的には「各人が能力に応じて労働し、労働に応じて分配する」という時期があります。社会主義社会では労働者の労働によって生産されたものは社会的共有物となつて、自分の生活が豊かになつていくわけですから、自発的に働く気持が出てきます。現在の資本家に搾取される賃金労働では苦しみしか残りませんから少しでも楽をしたい、というのが今日の労働者の気持でしょう。

MAⅡ労働者は怠けないかって？

資
本家連中は自分たちが怠けてピンハネし、搾取しか考えていないから、共産主義社会になつてみんな平等になつたら怠けたほうが得と考えるだろうというわけだ。今の社会はいくら働いても自分のものにはならないから怠け心が起きるんだ。しかし、生産手段が労働者階級のものになると働けば働いただけ自分に戻ってくるし、剰余生産物はみんなのものになり社会の発展に役立つ

つという意識が出てくるんだと思うよ。
○TⅡそうだね、搾取がなくなるわけだから。つまり労働の位置づけが現代と変わるんだね。今日の資本主義社会では、労働は強制された苦痛が伴つものとなつているよね。共産主義社会の労働は、ものを生み出す喜びというか、労働が喜びとなるような本来の労働の姿を取り戻すことになるんだ。

家族の廃止！

婦人の共有について

司会Ⅱ次に、本文P 63 「家族の廃止！」とは何か。資本主義社会では、「完全に発達した家族は、ブルジョア階級にだけしか存在しない」そして、「そういう家族を補うものとして、家族喪失と公娼制度とがプロレタリア階級に強いられる」とありますが、私は、いまの社会でも家族を大事にしているし、「家族はブルジョア階級だけしか存在しない」というのがわからないの



ロシア革命、レーニンの演説

ですが。

MⅡ共産主義者は家族を廃止するというブルジョアからの非難に対して、プロレタリアの家族を破壊しているのは資本主義だと反批判しています。

TAⅡこれは今の現実そのものではない。一家団欒なんて、完璧になくなった。夫婦が共に働かなくては食っていけない。残業、残業で家族とともに食事が取れない。遠距離通勤、単身赴任

介護などなど、今のプロレタリアの家族破壊の例示はいくらでもあげられるよね。

TⅡ安倍首相は5月3日の憲法記念日に、「2020年を新しい憲法が施行される年にしたい」と表明しました。

自民党憲法草案では、家族については、公的な支援に甘えるのではなく、自助・自立が強調され、ボランティアによる共助という援助、そして家族や親

族で助け合うのが日本の良き伝統という主張です。

MⅡそれは国家が福祉政策で本来行うもので家族相互に責任を負わせることは間違いです。共産主義者は、賃労働がなくなり「みじめな取得の性格」が廃止され、労働者の生活が安定

してくれば、家族が互いに独立した人格として結びつくことができる、そういう家族をつくと断言しています。それが本来の家族の在り方です。

司会Ⅱ次に婦人の共有について述べていますが、どなたか説明してくださいか。

TAⅡマルクスが生きていた時代のブルジョア階級の生活は、映画なんか見てもわかるじゃない。サロンなんかで色目を使って次から次へと婦人をとつかえひっかえしているみたいだね。そういう状態を「婦人の共有」と言っていると思う。

MⅡいや、ここでは、婦人の地位について述べています。「共産主義者は婦人の共有を採用する」という批判については次のように説明できると思います。ブルジョアにとっては、婦人は単なる生産用具にしか見えないから、生産手段の私有を廃止するということ、「婦人を共有しようとする」と言っ

ありもしない非難をするのですね。ここで問題にしているのは、単なる生産用具としての婦人の地位の廃止のことで、女性を解放し、真に人間として独立した人格としての社会的地位を与えようとするものです。

S II そうか、ブルジョアは婦人が子どもを産む生産用具にしか見ない。だから生産手段の共有という、「婦人も共有」だという認識になるわけだ。本当にお笑い草だ。

司会 II 資本主義的生産諸関係の廃止と共に、婦人の共有、つまり不倫や売淫はなくなるのですか。

M II 明日からなくなるといふものではないかもしれませんが、社会主義社会になると生産手段が社会の共有となり、さらに共産主義社会になると生産力が格段と発展します。物が豊富になり生活も安定し労働時間も短くなり知性と特性も高くなります。そういう社会の中で婦人の共有は必要なくなるということ

すね。もちろん女性運動を通して女性の権利闘争は現在の社会から歴史的に継続されていかなければなりません。

O T II 関東では、ベーベルの『婦人論』の学習会をしました。そこには、女性の真の解放は社会主義革命を通じてのみ達成されることが述べられ「未来は社会主義のもの・・・労働者と婦人のもの」として、婦人解放が人類解放を導くとして位置付けています。ぜひ読んでほしい古典です。

労働者革命の第一歩

司会 II 最後はいよいよ第2章の核心になります。「以上、見てきたところによれば、労働者革命の第一歩は、プロレタリア階級を支配階級にまで高めること、民主主義を闘い続けること。プロレタリア階級は、政治的支配を利用して、ブルジョア階級から次第にすべての資本を奪い、すべての生産用具を国家の手に、すなわち支配階級となつた

プロレタリア階級の手集中し、生産諸力の量を急速に拡大する。それは、所有権、ブルジョア的生産諸関係への専制的干渉なくしては出来ない」とあり、第2章のプロレタリアと共産主義者のまとめとなっています。わかりましたか。

O II 「労働者革命の第一歩は、プロレタリア階級を支配階級にまで高めること」とは、プロレタリアが権力を奪取するということかな。

M II そういうことだよ。現在は議会制民主主義の時代ですよ。まずは政治的に国会の議席を奪わなくては行けない。しかし現状はあまりにも微力だ。S II プロレタリアが階級として成長するには、現状を把握し、なぜか、どうしてかを学習討論し、職場抵抗闘争、平和と民主主義を守る闘いの中から、相互に高め合いプロレタリア階級になる。不平・不満を怒り、要求に高め闘う以外に成長はない。

◆みんなの学習講座

○Ⅱ組織労働者は、連合は800万人、全労協、全労連合わせても、全労働者人口5700万人の17%だと言われています。階級闘争に高めなければいけないというが、この組織率でどうか闘いにならないだろう。

MⅡ量でない。質だよ。闘う労働者と労働組合は少なくとも存在している。量、質転換の法則だよ。ものは変化し始めると早いんだよ。情勢が変化し変わるときには早い。悲観的にばかり見ないで情勢を正しくとらえることが大事だと思っよ。労働者の意識が変革し始めると早いということを理解しなければいけない。客観情勢が絶えずそういうものを与える。

TⅡそれは、客観的情勢と主体的条件が一致したとき革命がおこるといことだよ。革命とは国家権力を闘い取るということですよ。しかし、社会主義社会体制になっても、旧社会の支配階級の残滓ざんしがある限り、圧倒的多数

のプロレタリアによる国家権力によってその残滓を取り除くため、闘い続けなければならない時期があります。この時期はプロレタリア独裁だよ。ブルジョア階級の反乱を抑圧しないと反革命で負けちゃうからね。

○Ⅱそうです。そのためにマルクス・エンゲルスは、社会主義社会建設のための10の諸方策を示しました。この諸方策は、国が異なるにしたがい違いますが、進歩した国々にとつては、この方策はかなり一般的に適用されると言っています。ここでは紙数の関係で諸方策は省きますが、最後に階級の廃止について重要なことを述べています。

「プロレタリア階級が、ブルジョア階級との闘争のうちに必然的に階級にまで結集し、革命によって支配階級となり、支配階級として強力的に古い生産関係を廃止するならば、この生産諸関係の廃止とともに、プロレタリア階級は、階級対立の、階級一般の存在条件

を、したがって階級としての自分自身の支配を廃止する」とまとめています。司会Ⅱ結論が出たようですね。階級対立のない社会では、「一つの協力体があらわれる。ここでは、ひとりひとりの自由な発展が、すべての人々の自由な発展にとつての条件である」と、すべての人々が自由に発展する社会であることを提示しています。

第1章と第2章の学習で明らかになったことは、①原始共產主義の社会は共生が基本でした。②生産手段が発達し、剰余生産物が生まれるようになり階級が発生し、階級社会が続きました。③そして、資本主義社会は階級と階級対立をもった最後の競争社会です。④それはプロレタリア革命によって、階級と階級対立が廃止されます。⑤この考え方は唯物史観による階級闘争論を展開した論理的、歴史的な論考と言えます。ありがとうございます。

次回は、第2章のまとめです。